

令和3年度 自己評価書

学校名	和歌山市立紀之川中学校
校長氏名	中村 清司
作成日	令和 4年 2月 28日

1 教育目標

<p>学校教育目標 あなたがいてよかったと言われる人になろう めざす生徒像 自ら求める生徒(主体性を育む) 自ら省みる生徒(連帯性を育む) 自ら創る生徒(創造性を育む) の育成をめざす</p>
--

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○授業がよくわかる 80% ○授業改善(目標・振り返り) 95%	○学校が楽しい 95% ○いじめを許さない95%	○朝食を毎日食べる 95%	○連携回数 3回以上
重点目標【P】	◎生徒指導の充実 ◎基礎・基本の確かな定着 ◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ◎家庭学習の定着 ◎読書活動の推進	◎道徳教育・人権教育の推進 ◎いじめの未然防止・早期発見 ◎規範意識の確立・仲間作り	◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ◎危機回避能力の育成	◎家庭・地域との連携充実 ◎中学校区における幼保小との接続連携に取り組む
取組の状況【D】	教科指導、みまわり等を通じ、学習できる環境や学習規律を保っている。基礎基本の定着を図るため、宿題や課題を作成し点検することの繰り返しをしながら進めている。「学び合い」の授業づくりによる授業改善を推進する。家庭学習、放課後学習、読書習慣を図るよう学校全体で取り組んでいる。	「特別の教科 道徳」の授業では、年間計画を通じて、指導と評価を繰り返し、指導方法の工夫改善に取り組む。授業や学校行事、部活動等を通じ、集団づくりの中で、生徒個々の心の育成に努めている。各学期において、教育相談を実施し、生徒の悩みを聞く機会を確保する。規範意識を確立するため、1年生でキッズサポートスクールを実施している。	コロナの影響により、今年度も自らの健康観察と手洗い等の対策を徹底している。保健だよりでは「新型コロナウイルス対策」についての最新情報を知らせることで、その時期に見合う課題を提供することができている。	コロナ禍ではあるが、学校運営協議会は予定通り行いたい。地域の行事等にも参加し、昨年度出来なかった連携を取り戻せたらと考えている。図書ボランティアの協力で、図書室の整備が年々進み、生徒の利用しやすい図書室となっている。小中連携においては、なかなかお互いが訪問することは難しい状況ではあるが、形を変えてでも交流を図りたい。
取組の成果と課題【CG】	学習規律は何とか保っているが、生徒一人一人の学力向上という、全体的にはまだまだである。しかしながら、「学び合い」を進める中、授業改善に向けた取り組みはできたように思われる。「主体的・対話的で深い学び」は少しずつではあるが、浸透しつつある。	「特別の教科 道徳」について、年間指導計画を実践して、計画的に取組んでいるか確認を行ってきた。朝の挨拶運動を通じて、朝の挨拶等が生徒の間に定着してきている。アンケートに基づき、教育相談を実施できている。	生徒の健康観察調査を毎朝行うことで、生徒の急な変化が生じた場合、家庭へ連絡を取って下校させる対応を行った。生活習慣に関しては、遅刻する生徒は少なくなってきたものの、朝食を食べずに登校する生徒は例年と同じく少なくない。今後も朝食について家庭へ啓発をしていく必要がある。	学校運営協議会は結果的に残念ながら、初回のみ開催しかできず、リモート開催することもできなかった。しかし、地域の活動では夜店の巡回と「若宮ガーデン」の花植えは何とか開催することができた。また、体育大会は3年生の保護者のみ、参加して開催した。図書ボランティアの方々にも厳しい状況の中ではあるが、生徒のために図書室を開放し利用を進めていただけた。
改善方法【A】	引き続き、「学び合い」の授業づくりを目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組んでいく。生徒の補習機会を少しでも増やし、授業の振り返りや基礎基本の定着をさらに進めていきたい。また、読書活動や朝学の充実も図ってきたい。	「特別の教科 道徳」が、授業時間の確保とともに、しっかりと指導計画に基づいて授業を進めるとともに、学年等で常に評価が適切か検討して改善を行った。全ての学期でアンケートを実施し、教育相談を通じて生徒の心の悩みを共有できるように努める。朝の挨拶運動も教師中心から生徒主体に広げていければと考えている。	新体力テストに向けての取り組みは、継続して行っていくとともに、スポーツを親しんだり楽しむといった気持ちを持つ生徒を養っていききたい。体育部活動の振興もその1つで、生徒の基礎生徒の基礎体力向上につながるものと考えられる。朝食においては、「早寝、早起き、朝ごはん」を柱とする基本的生活習慣の確立に努めていきたい。	学校ホームページ、学年だより、保健だより等の配布を通じて、保護者の方々や地域の方々に、学校の活動や状況を知ってもらえるよう取り組みを継続していく。コロナが収束すれば、保護者や地域の方々への学校への訪問参加を促していきたい。同時に小学校の連携もこれまで以上に取り組んでいきたい。

3 その他の課題

<p>生徒にとってわかる授業、学びが成立する授業を粘り強く実践していくことが、学習規律を生み、生徒の成長を支える礎と考える。また、コロナ禍の中、子どもの命と健康を第一に考え、GIGAスクール構想への対応を含めた「学びを止めない」授業をもとに、我々教職員が創意工夫を続けていくことが課題である。</p>
--